BAB IV

PENUTUP

Bab empat merupakan pembahasan mengenai kesimpulan dan saran dari hasil penelitian yang telah dilakukan.

4.1 Simpulan

Berdasarkan analisis yang telah dilakukan, ditemukan bahwa dari 2165 data, bentuk tindak tutur lokusi, ilokusi dan perlokusi muncul pada tuturan yang ada dalam novel *Norwegian Wood*. Adapun jumlah dan persentase dari penemuan tindak tutur tersebut antara lain: tindak tutur lokusi sebanyak 65 data (3,00%), tindak tutur ilokusi sebanyak 1615 data (74,60%), dan tindak perlokusi sebanyak 485 data (22,40%). Dapat dilihat bahwa jenis tindak ilokusi merupakan jenis tindak tutur yang paling dominan dari ketiga jenis tindak tutur tersebut. Dalam sumber data penelitian ini, tindak tutur ilokusi bersifat dominan dikarenakan banyaknya percakapan antar tokoh atau penutur yang cenderung berbentuk tanya-jawab serta kecenderungan suatu tokoh untuk menceritakan suatu kejadian atau perasaannya.

Kemudian berdasarkan hasil analisis pada teknik penerjemahan, ditemukan 17 dari 18 teknik yang digunakan untuk menerjemahkan tindak tutur dari bahasa Jepang ke dalam bahasa Indonesia. Teknik penerjemahan literal (harfiah) merupakan teknik yang dominan digunakan oleh penerjemah dalam menerjemahkan tindak tutur dalam novel *Norwegian Wood*. Teknik tersebut banyak digunakan oleh penerjemah karena dianggap dapat mempertahankan makna yang sepadan sehingga mudah dipahami dalam bahasa sasarannya. Teknik substitusi merupakan teknik yang tidak muncul sama sekali pada penelitian ini. Hal ini

dikarenakan, teknik substitusi berfungsi mengubah elemen linguistik menjadi elemen paralinguistik. Teknik ini sulit terlihat dari sebuah novel yang tidak secara konkret menunjukkan visual dari aksi para tokoh dalam novel. Dari keseluruhan 2165 data tindak tutur, ditemukan 2339 kali frekuensi penggunaan teknik penerjemahan. Dari teknik tersebut ditemukan bahwa 2003 data termasuk penerjemahan varian tunggal, 150 data termasuk penerjemahan varian kuplet, dan 12 data termasuk penerjemahan varian triplet.

Dari 2165 data tindak tutur, 65 tuturan lokusi diterjemahkan dengan teknik yang bervariatif. Teknik tersebut antara lain: adaptasi, peminjaman, kalke, kompensasi, kesepadanan lazim, amplifikasi linguistik, penerjemahan harfiah, modulasi, reduksi dan variasi. Pada tuturan ilokusi, 1615 data diterjemahkan dengan 17 dari 18 teknik penerjemahan. Teknik-teknik tersebut antara lain: adaptasi, amplifikasi, peminjaman, kalke. kompensasi, deskripsi, kreasi diskursif, kesepadanan lazim, generalisasi, amplifikasi linguistik, kompresi linguistik, harfiah, modulasi, partikularisasi, reduksi, transposisi dan variasi. Pada tuturan perlokusi, 485 data diterjemahkan dengan 16 dari 18 teknik penerjemahan. Teknik-teknik tersebut antara lain: adaptasi, amplifikasi, peminjaman, kalke, kompensasi, kreasi diskursif, kesepadanan lazim, generalisasi, amplifikasi linguistik, kompresi linguistik, harfiah, modulasi, partikularisasi, reduksi, transposisi, variasi.

4.2 Saran

Penelitian terkait teknik penerjemahan jenis tindak tutur pada novel *Norwegian Wood* ini termasuk ke dalam kategori penelitian yang masih memiliki celah dan jauh dari kata sempurna, dengan kata lain masih ada ruang bagi peneliti

lain yang ingin meneliti mengenai tema tersebut di kemudian hari. Penelitian mengenai tindak tutur dapat dilakukan dengan menggunakan sumber data lain seperti film atau novel dengan judul berbeda. Penelitian mengenai tindak tutur pun dapat lebih difokuskan lebih dalam pada salah satu jenis tindak tutur itu sendiri seperti, tindak tutur lokusi, ilokusi ataupun perlokusi mengingat bahwa dalam novel ini banyak sekali penemuan tindak tutur terutama tindak tutur ilokusi. Selain itu, penelitian mengenai teknik penerjemahan dapat dilakukan dengan cara memberikan penilaian terhadap kualitas terjemahan tersebut, apakah terjemahan tersebut merupakan terjemahan yang baik atau tidak.

要約

村上春樹の小説『ノルウェイの森』よりインドネシア語版
『*Norwegian Wood*』における発話行為の翻訳テクニック

ササ・インタン・マハラニ
121611333026

序論

異なる言語を喋る二人の話者とコミュニケーションをとる活動において、コミュニケーションがうまくいくため、翻訳あるいは翻訳プロセスが必要である。 Newmark（2018：15）は、翻訳とはある言語のメッセージやステートメントを別の言語のメッセージやステートメントに変える際に使用されるテクニックであると述べている。

翻訳には、優れた翻訳結果を得るために翻訳者が必要とするテクニックとストラテジーがある。 Molina と Albir（2002：509-511）は、翻訳の等価性がどのように機能するかを分析し、分類するための手順として、いくつかの翻訳テクニックと述べた。それは、adaptation、amplification、borrowing 、 calque 、 compensation 、 description 、 discursive creation 、 established equivalence 、 generalization 、 linguistic amplification 、 linguistic compression 、 literal translation 、 modulation 、 particularization 、 reduction 、 substitution 、 transposition and variation を含む 18 の翻訳テクニックである。

発話行為に関連する理解は、発話によって示される行動が発話行為と呼ばれることをYule（2006：83-85）は説明している。 すなわち、発話とは何かを解明することができ、行動によって生み出される機能を持っていることが分かる。

本研究では、村上春樹の小説『ノルウェイの森』をデータソースとして選定された。また、この小説は、日本で400万部を超えるベストセラーになり、インドネシア語を含む様々な言語に翻訳されているため、一つの人気のある文学作品として認められる。人気さをよそにして、この小説には、発語行為、発語内行為、発語媒介行為などを中心にインドネシア語版のものに内容的の同一されているではないだろう。

すなわち、本研究では、日本語版『ノルウェイの森』の小説にみられる発語行為・発語内行為・発語媒介行為は、インドネシア語版にはどのようなテクニックで訳せれたのかを明確使用かと思われる

本論

1．発話行為

Austin 氏（Marcu、2000：1721）は、「発話行為とは意味のある音や言葉を含む発話行為である」と述べている。 発語内行為とは、その一つは疑問で、質問に対しての回答、情報の提供、保証や警告などをどのように発話するかを説明する発話行為である。発語媒介行為とは、話し手と対話者の両方の感情、思考、または行動に特定の結果をもたらす可能性のある

発話行為である。 これらの基準に基づき、本研究の研究対象『ノルウェイの森』の中では、発話行為を構成する 2165 のデータが発見された。

a) 発語行為は「The act of saying something」であり、音を含み意味論的な意味を持つ発話として解釈することが分かる。例として：

ワタナベトオル：「たぶん僕は君のことをまだ本当には理解してないんだと思う 」（村上, 『ノルウェイの森（上 ）』2004: 19）

ワタナベトオルが直子に上記のような文章を発言した。 ワタナベは、直子がとても混沌としていて、直子の気持ちを理解していないように見え、に少し腹を立てている人だと彼女に話した。 上記のデータには、対話者、この場合は直子に結果的な影響を与えることなく、話された単語に従って意味が明確であるため、発話行為の形で含まれている。

b) 発語内行為とは「The act done in saying something」（Marcu 2000：1721）であり、話者はその発話をする際に何のため発話を使用するかを説明していると、より正確に解釈できる。例としては：

ハツミ：「少くともこの一年くらいのあいだに 耳にしたいろんな科白の中では今のあなたのが最高に嬉しかったわ 。本当よ 」（村上, 『ノルウェイの森（下）』 2004: 140）

上記のデータで、ハツミはワタナベの言葉に応えて、ハツミのように上品でビリヤードが上手な姉がいると幸せな気分になるということを伝えた。ハツミが表現した発話には、意味のある言葉であるだけでなく、相手の言うことに対する喜びの気持ちを表現しているため、発話内行為であることが分かる。

c）発語媒介行為とは、「The act done by saying something」（Marcu 2000：1721）であり、これは、発話が発話から生じる感情、思考、または行動の観点から、話し手と対話者の両方に特定の結果的効果を生み出すことができることを意味する。例としては：

緑:「もう一杯ほしい」(村上, 『ノルウェイの森（下）』 2004: 52)

上記のデータでは、緑といろいろなことを話し合った後、緑は注文した飲み物はもう一杯注文して欲しいというのは見られた。 その中で、緑が願い事を言うことに加え、ワタナベに間接的に命令を述べ、それがワタナベに緑のためにもう一杯の飲み物を注文するように効果を与えるので、発話行為として含まれていると思われる。

２．発話行為における翻訳テクニク

『ノルウェイの森』のインドネシア語版では、18 の翻訳テクニックのうち 17 が使用されていることが分かる。Literal translation のテクニッ

クはデータの 42.79%で、857 あり、一番多く見られた。その次、228 データ（11.38%）が見られる calque というテクニックである。三番目はデータに 190（9.49%）ほどみられる linguistic amplification というテクニックが使用されることが明らかになった。

Literal translation のテクニックとは、対象言語での意味に応じて、文章や語句を単語ごとに翻訳するテクニックである。 本研究では、literal translation のテクニックを使用しているデータは、発語行為に 10 のデータ、発話内行為に 641 のデータ、発話媒介行為に 206 のデータということがわかった。 このデータの例を次のようである。

ソース言語　　：「どうしてこんな所に来たの？」
(村上,『ノルウェイの森（上）』 2004: 43)
ターゲット言語　：“kenapa bisa sampai ke tempat seperti ini?”
(Murakami, 2019: 27)

上記のデータ例では、発語内行為は、「どうしてこんな所に来たの？」などの文字通りのテクニックを使用して翻訳されている。 これは、「kenapa bisa sampai ke tempat seperti ini?」という意味である。 発話は、対象言語での意味に応じて単語ごとに翻訳され、同等になることが明らかになった。

結び

本研究で行われた分析に基づき、2165 のデータから、『ノルウェイの森』小説の発話行為に、発語行為、発語内行為、発語媒介行為の形式が現れることが分かった。発語内行為の種類は、三種類の発話行為の中で最も支配的な種類の発話行為であることがわかる。 データソースでは、本質的に質問と回答になりがちな登場人物の間の会話の数と、登場人物がイベントや感情を話す傾向があるため、この研究では発話内行為が支配的である。

発話行為を日本語からインドネシア語に翻訳するために使用される 17 の翻訳テクニックのうち 17 のテクニックが発見した。LiteralTranslation のテクニックは、『ノルウェイの森』の小説の発話行為を翻訳する際に翻訳者が使用する最も支配的なテクニクである。Literal Translation のテクニックは、対象言語で理解しやすくするように同等の意味を維持できると考えられているため、翻訳者に広く利用されている。 Substitution のテクニックは、この調査では見られなかったテクニクである。

今後、これらのテーマを研究したいと思っている他の研究者のための余地がまだ多くあると思う。 発話行為の研究は、異なるタイトルの映画や小説、作品などの他のデータソースを使用して行うことができれば良い。この小説では発話行為、特に発話内行為の多くの発話があることを考えると、発話行為の研究は、発話行為自体の一つのタイプ、すなわち、発話行

為、発話内行為、または発話媒介行為に焦点を当てることもできる。　さらに、翻訳が優れた翻訳であるかどうかにかかわらず、翻訳の品質を評価することにより、翻訳テクニックの研究を行うことができる。